

解答

a 負 b 放課後 c 郵送 d 提案
ユーモアとぬぐもりの混在するちょっとといい話

一 長崎さんの話を細部まで聞かず、想定していたイメージのとおりに書いた。

二 他愛なくもほほえましい事件として、読者に喜んでもらえるという自信。

三 ガメラがもらわれていったとき長崎さんは安心しただうと思っていたのに、落ちこんでいたのだと知ったから。

四 亮くんが引っこしてから落ちこみ、亮くんのことを気にかけていたが、半年前に孤独死したということ。

五 2 学校でいじめにあつていたらしいが、長崎さんの家にガメラがいたあいだけは、他の子供たちと仲良くやつていたということ。

六 八 学校では弱気で友達をうまく作れなかつたため、同じく一人ぼつちだつたガメラに共感できたから。

七 ガメラがいたおかげで、亮くんに友達ができたことや、夫を亡くして一人だつた自分のところに子供たちが集まり、夢のよくな楽しい思いができたことを感謝している。

八 九 学校では弱気で友達をうまく作れなかつたため、同じく一人ぼつちだつたガメラに共感できたから。

十 ガメラがいたおかげで、亮くんに友達ができたことや、夫を亡くして一人だつた自分のところに子供たちが集まり、夢のよくな楽しい思いができたことを感謝している。

十一 一 学校では弱気で友達をつくつり、好ききらいせず食べているか心配している。

十二 2 亮くんが引っこした先で友達をつくつり、好ききらいせず食べているか心配している。

十三 長崎さんは、夫を亡くした上、むすこや孫も自分からはなれていたため、一人でさびしい思いをしていた。亮くんはそんな自分をたよつてくれ、さびしさをいやしてくれた子供だつた。また、彼が拾つてきたガメラのおかげで家に子供たちが集まり、にぎやかになつたので、生きる張り合いを与えてくれる子供でもあつた。

解説

二 投稿ハガキとは、「近所の「プチ事件」というコーナーあてに届いたハガキのことです（3～7行め）。この投稿ハガキをもとに「私」は、「おばあさんとカミツキガメ。／その悪戯苦闘を援護する近所の子供たち」（11・12行め）といふ構図をうかべ、「ユーモア（→おばあさんとカミツキガメという取り合わせ）とぬくもり（→子供たちがおばあさんを援護するところ）の混在するちょっとといい話」（13行め）という記事のイメージを描いています。なお、傍線部の後（74・75行め）にも、記事のイメージ（「一人のおば～一件落着」）が述べられているので参考にしましよう。

三 長崎さんの話の内容をまとめてみます。〈長崎さんがカメを飼うよつになつた→大きくなり凶暴になつたカミツキガメが手に負えなくなつた→亮くんや近所の子供たちにカメの世話を手伝つてもらうよつになつて、家がにぎやかになつた→新しい飼い主が見つかった〉これは、二で見たよくなイメージからずれるところはありません。なお、後（152～178行め）に「私」が取材テープを再生して知ることになつた、「長崎さんは、カメの世話をするため近所の子どもたちが家に集まつてくれるのをうれしく思つていたため、本当はカメを手放したくなつた」というよくな、イメージから外れる言葉は、ここには並べられていません。

四 傍線①からは、睡眠不足の「私」が取材中に何度も眠気をもよおしていることがわかります。そんな状態では、長崎さんの話を細部までは聞けなかつたことでしょう。傍線③と引き続く71～80行めから、「私」は取材のテープを聞かず、「他愛なくもほほえましい事件」というイメージに沿う形で記事を立てていったことが読み取れます。

五 記事がどのようにでき上がつたことに自信を持つていていたのでしょうか。「私」は、「他愛なくもほほえましい事件に仕立てる手ごたえ」（73行め）を持って記事の原稿を書いています。「かつてないほどスムーズに原稿を書きあげた」（81行め）とあるので、その手ごたえ通りに記事は仕上がつたのでしょうか。また、「他愛のない内容であるほど不思議と読者に喜ばれた」（9・10行め）という箇所にも注目しましょう。

六 74～80行めより、「私」は二で見たよくなイメージをもとに、「長崎さんは新しい飼い主を探し出して、やつかいなカメの問題を解決し、一安心した」という筋立ての記事を書いたことがわかります（「一件落着」（75行め）や「平和な日常を取りもどした」（80行め）という言葉に注目しましよう）。だから、取材から一年後、長崎さん宅を訪れ、「カメのときもそうだけど、長崎さんも落ちこんで、またやせてしまつてね」（126行め）という話を「主婦」から聞いたとき、長崎さんが落ちこんだ理由がわからず、混乱しているのです。なお、「――え、ほつと一安心？」（176行め）という長崎さんの言葉から、「カメのもらい手が見つかつてほつと一安心されたことでしょう」というよくな

とを「私」が長崎さんに言つたことが読み取れることにも注意しておきましょう。

七一 まず、106行めと111行めから、長崎さんが亡くなつて、(＝孤独死していた)ことを知つたことがわかります。また、126行めと139行めなどから、亮くんが引っこしてから長崎さんが落ちこみ、亮くんが引っこした先の学校でうまくやつてあるか、気にかけていたことを知つたことがわかります。

七二 123行めから、亮くんが学校でいじめにあつて、いたらしいことを知つたことがあります。また、139行めから、亮くんがカメがいたあいだけは、長崎さんの家で他の子供たちと仲良くやつて、いたことを知つたことがわかります。

八 二や三で見たように、「私」は、「長崎さんが凶暴な力ミツキガメと奮闘する。しかし、子供たちに助けられながら新しい飼い主を探し出し、問題を解決する」というイメージで記事を作ろうと考えて取材に臨みました。だから、その筋立て(＝「本筋」(32行め))から外れることは「脱線」(31行め・34行め)として注意を払いませんでした。ところが、152行めからは、「食が細く、好ききらいも多くて心配していた亮くんがよく食べるようになつて長崎さんが驚いている(安心している)」ことが読み取れます。また、164・165行めには、亮くんがどういう気持ちでガメラを拾つてきたのかが述べられており、さらに、166行めからは、さびしい思いをしていた長崎さんが、亮くんをはじめとする子供たちのおかげで楽しい時間を過ごすことができてよかつたと思つていたことがわかります。このように、実は、152行めには、記事にされることがなかつた、長崎さんや亮くんの心情(気持ち)(＝「カメの話」)の中でもとても大事なことを読み取ることができる言葉が並べられているのです。

九 まず、傍線⑦より、亮くんにはガメラが「ひとりぼっち」に見えていたのを「さびしそうに見え」たのだと想像でります。139行めから、亮くんは内弁慶(＝学校では弱気)で、友達をうまく作れない子供だったことがわかります。亮くんは「ひとりぼっち」という点が共通しているガメラに自らの姿を重ね、かわいそうで「放つておけなかつた」のでしょう。

十 22・23行めと166行めから、長崎さんが、一人むすこと孫が自分のもとを離れ一人ぼっちでいることをさびしく思つて、いることを読み取りましょう。そんな中、カメが長崎さんの家に来たことで、亮くんだけでなく、他の子供たちもカメの世話を手伝うために長崎さんの家に集まり、笑い声がいつも家の中にひびくようになりました。また、学校ではうまくいかなかつた亮くんにも友達ができて、笑顔が増えていました。長崎さんは、そのようにして家の中がにぎやかになつたことを、夢のように楽しいことだと感じたことでしょう。つまり、「カメが私を竜宮城に連れて行つてくれた」という表現は、「カメのおかげで私は楽しく満ち足りた時間を過ごすことができた」ということを表しているのです。

十一 80行めから、「私」は78行めの長崎さんの言葉を、「長崎さんの中に残るガメラへの愛情」を表す、記事の結びの言葉にしようとしていたことがわかります。したがつて、「私」は、長崎さんが「元気かしら」と「あの子(＝ガメラ)」を心配していると理解していたのです。

一二 「よく食べるカメ」(152行め)、「(亮くんは)もともと食の細い子で、好ききらいも多くて、心配してた」(155行め)とあることから、長崎さんが、新しいところ(引っこした先)でもちゃんと食べているかどうか心配しているのは、ガメラではなく、亮くんです。となりに住んでいた主婦の「長崎さん、最後まで亮くんのことを気にかけていたわ。鹿児島では友達ができたのかしらって」(139行め)という言葉も、ふまえると、「あの子、元気かしら」という言葉は、長崎さんが、亮くんが鹿児島で友達をつくり、うまくやつて、いるか心配する気持ちから出たものだと想像できます。

十三 まず、「六年前に主人を亡くして、はりきつて、そうじをしたんですよ」(22・23行め)、「——亮くん、うちの孫うないけれど」(166行め)から、長崎さんは、夫に先立たれ、むすこと孫も自分の元から離れて行つてしまつたことをさびしく思つて、いることを、そして、自分のことをたよつてくれる亮くんは、そのさびしさ・孤独感をいやしてくれる存在だったことを読み取りましょう。また、亮くんが拾つてきたカメのおかげで、長崎さんの家に近所の子供たちが集まり、「子供たちの笑い声がいつも家の中にひび」(169行め)くよくなりました。そういう時間を長崎さんは、「なんだか夢のようだつた」(169行め)、「いい夢を見させてもらいました」(171行め)と楽しい時間だつたとどちらにしても注意しましょう。これは十でも見た通りですね。つまり、亮くんは、長崎さんに、生きがい、生き張り合いを与えてくれる存在でもあつたのです。